



# すてきな女性たちが書いた本

ごみ・環境ビジョン21 理事 井上 真紀子

一年ぶりの「\*いの\*の編集後記拡大版」。「これ、みんなに伝えたい！」と思うことがあると、事務局便りのコーナーに書ききれなくて1ページ頂戴してありますが、たいていごみ問題からはふらふらと離れた話になってしまうのはご愛嬌ということで…

今日は、最近私が友だちや娘にプレゼントした、あるいはこれからプレゼントしようと思っている、最近出版された本をご紹介します。どの本も、著者とは長〜い付き合い。信頼のできる本なのです。

## ① 「お手本の国」のウソ

新潮新書 2011.12.16 発行 ≒ 777 円≒

ドイツの戦後処理やフィンランドの教育法、フランスの少子化対策、アメリカの陪審員制度など、日本人から見るとお手本とされている国がありますが、果たして本当にうまくいっているのか…「Rihoのドイツ便り」の田口理穂さんが代表となって、各国在住の7人のライターが現地目線で書いています



企画から発行まで1年半もかかった力作。ほとんどが女性ライターだからなのか、カタイ話なのにおしゃべりを聞いているように読めてしまいます。

2000年の夏にごみかんメンバーがエコツアーでドイツを訪れた際に、通訳とガイドを勤めてくれたのが、当時ハノーバー大学生だった理穂さんでした。すっかり意気投合し、別れ際にはちゃんと「今後ドイツの最新情報を送ってほしい」とお願いしました。あれから11年、ガイド・通訳としてはもちろんのこと、今やライターとしても一流の理穂さんに、ずっとボランティアで原稿を書いていただいているわけで、ほんとうに申し訳ないことです(〇\_〇)

## ② 子育てのモヤモヤ ウツウツが晴れる本

～こころがラクになる考え方～

PHP研究所 2011.9 発行 ≒ 1260 円≒

こちらの本も共著。言語聴覚士、児童精神科医、臨床心理士…経験豊かな3人の女性によるもの。

本をまとめた臨床心理士の花山美奈さんは長年、調布市の子ども支援センターに関わってきました。

子どもが同級生同士だったことで花山さんと知り合い、私もまた、子どもがむずかしい年齢の時にはいろいろと相談して助けてもらいました。

この本では、初めての子どもを育てるお母さんが持ちやすい「つらいな」「困ったな」という気持ちに3人のアドバイザーがそれぞれに答えています。答えといっても「こうしなさい、ああしなさい」ではなくて「こうでいいんだよ」「こんな風に考えたら？」という語り口。新米お母さんだった自分に、タイムマシンで届けてあげたいような本です。

PHPの家庭用直販という形式での販売なので、購入するにはPHP研究所HPか電話(075-681-8818)で購入するか、書店に注文してください。



## ③ 「内部被ばく」こうすれば防げる!

放射能を21年間測り続けた  
女性市議からのアドバイス

文藝春秋 2012.2.10 発行 ≒ 1260 円≒

たった今、飛び込んできた出版のお知らせ。ごみかん会員でもある小金井市議の漢人明子さんの著書です。監修はあの松本市長菅谷 昭さん。内容は大いに期待できそうです。すぐに関わなくちゃ!